

(2) 米づくり

町のほとんどの農家が、米づくりをしています。猪苗代町は米づくりに合ったところで、^{びょうき}病気や^{がいちゅう}害虫の発生も少ないです。

春になると、農家の人は、^{ひりょう}肥料をまぜた土に^{しょう}消どくした種もみをまき、^{いくびょうき}育苗器に入れ、決まった温度にして^{なえ}苗を^{そだ}育てます。その間に、たい肥などの肥料を土とよくまぜるために、田おこしや代かきをします。こうして、苗のよく育つ土にします。苗の葉が、3・4まいぐらいになったとき、田植えをします。

夏には、水がなくならないように田を見てまわったり、草かりをしたり、^{じょそうざい}ざっ草がはえないように除草剤をまきます。また、病気や害虫からいねを守るため消どくをします。

秋にいねが^{みの}実ると、コンバインでかりとり、だっこくをし、カントリーエレベーターでかんそうやもみすりをして出荷します。

米づくりの仕事は、機械を使ってするようになったので、とても早くできるようになりましたが、いねの花がさき、実るころに^{にっしやう}日照不足や^{ていおん}低温・^{たいふう}台風などにみまわれ、^{ふさく}不作になることもあるので、農家の人の^{しんぱい}心配はたえません。

また、他の国から米が日本に^{ゆにやう}輸入されはじめ、ますます米づくりを心配する声もふえています。しかし、そんな中でいろいろ工夫しているグループもあります。

米づくりの作業ごよみ

